

問1 日本、アメリカ、ドイツの国内旅客輸送における交通手段の構成比を比較したとき、日本は他の二国に比べて鉄道の利用割合が約3割と高く、航空機も約6パーセントを占めています。このように、日本において鉄道や航空機が重要な役割を担っている背景として、日本の国土の特色から説明したものととして最も適切なものはどれですか。 (2022年 広島公立入試 類似)

1. 四方を海に囲まれた島国であり、国土が南北に細長いため、大都市間を結ぶ長距離の移動において高速鉄道や航空路線の効率性が高いから。
2. 国土が広大な平原で構成されており、都市間の距離が非常に短いため、短距離移動に適した鉄道が全国的に発達したから。
3. 南北に短い国土であり、山地がほとんど存在しないため、航空機を利用した移動が最も安価で効率的な手段となったから。
4. 多くの離島を抱えているが、すべての主要な島がトンネルや橋で結ばれているため、船舶の代わりに鉄道が利用の大部分を占めているから。

問2 日本の人口増加率と人口密度の空間的な特徴について、背景となる社会・地理的要因を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2020年 島根公立入試 類似)

1. 三大都市圏以外の地域においても、交通網の整備や地方中核都市への機能集中により、人口増加率が維持・上昇する県が存在する。
2. 高度経済成長期以降、人口密度が高い地域は太平洋ベルトにのみ固定されており、それ以外の地域で密度が高まることはない。
3. 人口増加率は全国的に低下しているため、三大都市圏であっても人口密度が上昇している地域は現在では存在しない。
4. 日本の人口密度は、山地が多いという地形的制約を反映し、内陸部の県であればどこでも沿岸部より一律に高くなっている。

問3 近年、日本の漁業は「獲る漁業」から「育てる漁業」への転換が進められています。その手法の一つとして、稚魚を放流して自然の海で成長させる方法が選ばれる理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2021年 徳島公立入試 類似)

1. 放流後の餌代がかからず、広大な自然の海を利用して資源を増やすことができるため
2. 網などの漁具を使わずに、素手や簡単な道具だけで効率よく漁獲できるため
3. 海外の遠い漁場まで行かずに、港のすぐ近くにある生け簀の中だけで完結できるため
4. 特定の魚種だけを絶滅させるために、生態系のバランスを人工的に操作するため

問4 2024年度の統計において、日本への輸入割合がアラブ首長国連邦 (43.7%)、サウジアラビア (40.0%)、クウェート (6.8%) の順に高く、その約9割を西アジアに依存しているエネルギー資源は何ですか。 (2026年 愛媛公立入試 類似)

1. 原油
2. 液化天然ガス (LNG)
3. 石炭
4. 鉄鉱石

問5 東京都、大阪府、神奈川県、福岡県などの都市部や、観光業が盛んな沖縄県において、他の都道府県と比べて「産業別人口」に占める割合が非常に高くなっている産業分類として、最も適切なものはどれですか。 (2024年 福岡県公立入試 類似)

1. 農業や漁業を中心とした第一次産業
2. 製造業や建設業を中心とした第二次産業
3. 小売業やサービス業を中心とした第三次産業
4. 情報通信技術に特化した第四次産業

問6 日本の伝統的工芸品には、その土地の自然環境や生活の知恵が反映されています。冬に雪が多く、気温が低い地域で発達した伝統的工芸品とその成立背景について、正しい記述を選択してください。 (2015年 鹿児島県公立入試 類似)

1. 積雪により冬場の農業が困難な地域で、家の中で行える手作業が農閑期の副業として定着した。
2. 冬の乾燥した晴天を利用して、屋外で原料を天日干しにする作業が効率的に行えた。
3. 夏の涼やかな気候を活かして、原料となる植物の栽培と加工を同時に行う仕組みが作られた。
4. 雪解け水を利用した水力発電が早期に普及し、大規模な工場での機械生産が発達した。

問7 長野県の野辺山原のような標高の高い地域では、夏の気温が平地に比べて低いという気候条件を活かして、他の地域での生産が難しい夏から秋にかけてレタスなどの高原野菜を出荷しています。このように、自然環境を利用して出荷時期を遅らせる栽培方法を何といいますか。 (2016年 富山県公立入試 類似)

1. 抑制栽培
2. 促成栽培
3. 近郊農業
4. 二毛作

問8 日本の自動車生産の推移を示す統計において、1980年代後半から2000年代前半にかけての状況を確認すると、国内生産台数が約120万台前後で伸び悩んでいる一方で、海外生産台数は約11万台から約98万台へと約9倍に急増しています。このような企業の動向が、日本国内の産業に与える影響として最も適切な説明を選びなさい。 (2019年 山形公立入試 類似)

1. 海外への生産移転が進むことで、国内の製造業における技術の継承が困難になり、雇用の減少を招く可能性がある。
2. 海外での生産が拡大することで、国内の工場でも部品の製造が急増し、国内の雇用は統計的に増加し続ける。
3. 海外生産が国内生産を上回る勢いで増加しても、国内の生産能力には全く影響せず、産業構造は変化しない。
4. 海外への工場移転は、国内の第一次産業である農業や漁業の生産意欲を高め、食料自給率の向上に寄与する。

答え合わせ・解説

- 問1** **答え 1**
四方を海に囲まれた島国であり、国土が南北に細長いため、大都市間を結ぶ長距離の移動において高速鉄道や航空路線の効率性が高いから。
- 日本の国土は南北に細長く、さらに山地が多いため、自動車での移動には時間がかかる場合があります。そのため、東京、札幌、福岡といった遠隔地の主要都市間を迅速に結ぶ手段として、航空機や新幹線などの鉄道が重要な役割を果たしています。アメリカなどの広大な大陸国家と比較して、日本では公共交通機関による移動が定着しているのが特色です。
- 問2** **答え 1**
三大都市圏以外の地域においても、交通網の整備や地方中核都市への機能集中により、人口増加率が維持・上昇する県が存在する。
- 人口増加率や人口密度の分布は、単に「都会か田舎か」という二分法だけでは説明できません。近年では、地方においても行政や商業の拠点が集まる都市部、あるいは子育て支援策や産業誘致に成功した特定の県において、三大都市圏に引けを取らない人口の流入や維持が見られます。例えば、2010年代の統計において人口増加率が高い地域が全国に点在しているのは、こうした地方都市の成長や、沖縄県のような独自の人口構造を持つ地域の存在が影響しています。太平洋ベルトという従来の枠組みを超えた、多角的な視点での理解が求められます。
- 問3** **答え 1**
放流後の餌代がかからず、広大な自然の海を利用して資源を増やすことができるため
- 栽培漁業は、稚魚になるまでの最も死亡率が高い時期を人間の管理下で育てることで生存率を高め、その後は自然の海へ放流します。これにより、養殖漁業のように出荷まで餌を与え続けるコストを抑えつつ、自然の生産力を活用して水産資源を維持・増大させることが可能になります。
- 問4** **答え 1**
原油
- 日本のエネルギー供給において、火力発電や輸送燃料の原料となる原油は極めて重要な資源です。かつてはインドネシアなど東南アジアからも多く輸入していましたが、現在はサウジアラビアやアラブ首長国連邦といった西アジア（中東）の国々への依存度が非常に高まっており、全体の約9割を占めています。
- 問5** **答え 3**
小売業やサービス業を中心とした第三次産業
- 産業別人口の構成比は、地域の経済活動の特徴を反映します。多くの人が生活し、企業が集まる都市部や、国内外から多くの旅行者が訪れる観光資源が豊富な地域では、商業施設や医療、福祉、娯楽といった対人サービスを提供する産業の需要が非常に大きいため、第三次産業に従事する人の割合が全国的に見て高くなります。
- 問6** **答え 1**
積雪により冬場の農業が困難な地域で、家の中で行える手作業が農閑期の副業として定着した。
- 豪雪地帯では冬の期間、農地が雪に覆われるため耕作が不可能です。この時期の労働力を活用するために、手近な木材や竹、繊維などを加工する技術が磨かれました。大館曲げわっぱ（秋田県）や、冬の温度が糸の加工に適していた越後上布（新潟県）などがその代表例です。
- 問7** **答え 1**
抑制栽培
- 標高が高い地域の涼しい夏を利用し、他の産地が品薄になる時期に合わせて出荷を遅らせる工夫は抑制栽培と呼ばれます。これに対し、宮崎県や高知県などで温暖な気候を利用して出荷時期を早める方法は促成栽培であり、混同しないよう注意が必要です。
- 問8** **答え 1**
海外への生産移転が進むことで、国内の製造業における技術の継承が困難になり、雇用の減少を招く可能性がある。
- 自動車などの製造業が生産拠点を海外へ移すことは、企業にとってはコスト削減や現地市場での販売拡大という利点がありますが、国内視点では「産業の空洞化」という課題を生みます。統計に見られる海外生産の急増は、国内での労働機会の喪失に直結し、長期的には国内の製造現場から高度な技術やノウハウが失われるリスクをはらんでいます。